

東日本大震災から14年、能登半島地震から1年
災害大国で生きる全ての人へ届けたい。



フクシマを能登を
私たちの今として捉える。
未来に希望をつなぐために。
現実を見据え続けてきた人々の
視と志と言葉が突き刺さる。
窓辺に差し込む朝の光のように、
人を目覚めさせる1冊。
——あさのあつこ(作家)

国内外の被災地を歩く、
福島在住のジャーナリスト
からあなたへ

藍原寛子 著

フクシマ、能登、 そしてこれから 震災後を生きる13人の物語

四六判 240 ページ 1,650 円(税込)

何かに行き詰まった時、未来が見えなくて落ち込んだ時、本書のフクシマと能登の人々の言葉を
思い出してみてください。

それらは暗闇の中にあっても、絶え間なく灯り続けるたいまつとなって、私たちの人生の行く先
を照らしてくれるはずです。——おわりにより

目次より

——フクシマ——

- ◆災害後を生きる人々をつなぐ映画館
阿部泰宏さん(福島市)
- ◆安全かどうかは私が決める
片岡輝美さん(会津若松市)
- ◆失われ、消えゆくふるさとを歌に遺す
三原由起子さん(浪江町)
- ◆「原発反対」を生き続ける漁師
志賀勝明さん(相馬市)

- ◆子どもを被ばくから守りたい
水戸喜世子さん(大阪府)
- ◆いわきの言論空間を豊かに
大越章子さん(いわき市)
- ◆国産原爆のウラン採掘を伝える
前田邦輝さん(石川町)
- ◆原発を問うた詩人
若松丈太郎さん(南相馬市)
- ◆平和と震災を語る講談師
神田香織さん(いわき市出身)

——能登——

- 伝統の漁とウェットスーツ 輪島の海女たち
早瀬千春さん(輪島市海士町)
- 被災の現実を伝えたいと対話し続ける
塚本真如さん(珠洲市)
- 珠洲の海の美しさをともに守りたい
砂山信一さん(珠洲市)
- 原発誘致をしなくても暮らせる能登を
北野進さん(珠洲市)



藍原 寛子(あいはら ひろこ)

ジャーナリスト。福島県生まれ。福島民友新聞記者を経て Japan Perspective News を設立、内外に発信している。阪神淡路大震災、東日本大震災で支援・取材活動を重ね、能登半島地震では直後から被災地に通い、被災者の様子を伝える。

2014年『婦人之友』に「福島のいま」、21年「10年後のフクシマ」を連載。2024年、被災地取材などにより日本外国特派員協会の報道の自由賞受賞。福島在住。